

## 教育講演1 高気圧酸素治療の過去・現在・未来

石曾根清一

エア・ウォーター株式会社 医療カンパニー  
地域医療事業部 医療機器部

簡単に高気圧酸素の歴史を遡ってみると、国内で初めて高気圧酸素治療装置が設置されたのが50余年前、社会保険診療報酬点数表に始めて高気圧酸素治療が掲載されたのが40年、そして、弊社がアクリル製高気圧酸素治療装置の取扱を開始して今年で30年を迎えた。

このような長い歴史の中で弊社では決して忘れられない、忘れてはいけない事柄がある。

【1996年2月21日 15:05】

日本国内で起きた“最後の”高気圧酸素治療装置による死亡事故の発生である。様々な要因が絡み合っただけで起きたこの不運な事故は弊社取扱の装置で発生した。

まもなく事故から23年が経過しようとしている。現在、装置に関わる医療従事者の方々の多くは、この事故を目の当たりにしてはいないと思われる。そこであらためてこの事故を振り返ることで、『本当の意味での恐ろしさ』を再確認して頂きたいと思う。

弊社では二度と同様の事故が発生しないことを願って、同年より毎年肌寒くなりカイロの持込等のリスクが高まる秋口から納入先施設を訪問し、実際に操作される方と顔を合わせ、安全使用に関する啓蒙活動を行っている。

昨年も10月より開始したが、ただ単に啓蒙活動を行うのみならず“私たちのお客様がどのように装置と関わっているのか”を更に知ることを目的に、20年間続いた既存のフォーマットを大きく変更し『お客様の今』を伺った。

対象は、弊社取扱装置が現在設置されている施設とし、稼働・未稼働の状況は問わず、全てを対象とした。

質問項目は、稼働状況、救急・非救急比率、処方が多い診療科(複数回答可)、処方の多い適応疾患(複

数回答可)、生体モニターの有無と使用頻度、加圧方法等を伺った。

今回はこの調査から見えてくる、弊社ユーザーの装置との関わり方について分析した結果を報告する。

今年も同様に10月より啓蒙活動と合わせて運用状況について伺っている。今年も高気圧酸素治療の診療報酬が大幅に改定され、昨年までとは運用状況も大きく変わってきていると思われる。今年の調査はまだ始まったばかりではあるが、回答頂いた数施設の状況から、高気圧酸素治療の未来を考える。

最後に、22年前の事故がいつまでも“最後の”事故であり続けることを願って、装置の安全使用を訴えたい。